



## 答え合わせ・解説

|     |   |   |
|-----|---|---|
| 問1  | <b>答え 1</b><br><b>風土記</b>                                     | 和銅6年（713年）に編纂が命じられた書物です。地方の自然、産物、伝承を公的に記録することで、中央政府が全国状況を把握しようとする目的がありました。現存するものとしては『出雲国風土記』などが有名です。  |
| 問2  | <b>答え 1</b><br><b>白村江の戦いで敗北後、唐や新羅の侵攻に備えるため</b>                | 663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた日本（倭）は、大陸からの報復や侵攻の危機に直面しました。これに対抗するため、九州の外交・軍事の拠点である大宰府や、その周辺の沿岸部を警備する必要が生じ、防人の制度が整えられました。  |
| 問3  | <b>答え 1</b><br><b>天皇や貴族だけでなく、防人や農民といった幅広い階層の人々の歌が収められている。</b> | 当時の社会状況を反映し、天皇から庶民にいたるまで多様な人々の感情が詠み込まれている点が最大の特徴です。特に九州の警備にあたった人々の心情を詠んだ「防人の歌」や、東日本の民衆の歌である「東歌（あずまうた）」などは、当時の地方の人々の生活を知る貴重な史料となっています。   |
| 問4  | <b>答え 1</b><br><b>遣唐使がもたらした唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色を持っている。</b>   | 天平文化は、遣唐使によってもたらされた唐の高度な文化や仏教の影響を強く受けています。当時の唐は西アジアなどとも交流があったため、正倉院の宝物にはペルシャ風の意匠が見られるなど、国際色豊かな（国際性豊かな）文化であったことが特徴です。一方で、国風文化は平安時代中期以降、水墨画などの文化は室町時代以降の特色であるため混同しないよう注意が必要です。                          |
| 問5  | <b>答え 1</b><br><b>班田収授法</b>                                   | 唐の律令制度を模範としたこの土地制度は、すべての土地と人民は国家のものであるとする「公地公民」の原則に基づいています。戸籍に基づいて6歳以上の男女に「区分田（くぶんでん）」を与え、死後に返還させることで、租（稲の収穫高の約3%）を徴収する財政基盤を確立しようとした。   |
| 問6  | <b>答え 1</b><br><b>和同開珎</b>                                    | 奈良時代の直前である708年に、武蔵国から銅が献上されたことをきっかけに鑄造されました。唐の貨幣制度を取り入れることで律令国家としての体制を整える狙いがあり、当時建設が進められていた平城京周辺で主に流通しました。  |
| 問7  | <b>答え 1</b><br><b>藤原京から平城京への遷都が行われた</b>                       | 小野妹子の派遣は七世紀初頭の飛鳥時代、白河上皇による院政の開始は十一世紀末の平安時代後期の出来事です。七百年に藤原京から平城京へ遷都が行われたのはその中間の奈良時代にあたります。平安京への遷都は七百九十四年であり、時期としては含まれますが、設問の「平城京への遷都」に関する歴史的な文脈として最も適切な選択肢を判断する必要があります。鎌倉幕府の成立や聖徳太子の政治は、この期間の外側の出来事です。 |
| 問8  | <b>答え 1</b><br><b>口分田</b>                                     | 律令国家が「公地公民」の原則に基づき、土地と人民を直接支配するために整えた仕組みが班田収授法です。この法によって、6歳以上の男女に与えられた土地を口分田と呼びます。口分田を与えられた人々には、その面積に応じて収穫の約3%を稲で納める「租」という税の負担が義務付けられていました。   |
| 問9  | <b>答え 1</b><br><b>古事記</b>                                     | 石見神楽などの各地の伝統芸能や祭礼は、この歴史書に記された神話をモチーフにしているものが多くあります。この書物は現存する日本最古の歴史書であり、当時の人々の世界観や神話を知る上で非常に重要な資料となっています。   |
| 問10 | <b>答え 1</b><br><b>仏教の力に頼ることで、疫病や社会の混乱を鎮め、国家の安泰を願うため</b>       | 聖武天皇が発した「大仏造立の詔」には、広く国民の協力を得て仏教の力で世の中を安定させたいという願いが込められていました。当時は天然痘などの疫病が猛威を振るい、多くの犠牲者が出ていた背景があります。この巨大な造立事業には、政府から弾圧を受けていたものの民衆から絶大な支持を得ていた僧の行基も協力し、国家的なプロジェクトとして進められました。                             |